



平松としひで

愛知県議会議員として本格始動! 公約実現に向け東奔西走!

愛知県議会 令和元年12月議会本会議にて質問に立つ



令和元年12月6日、平松利英は愛知県議会にて初めて本会議の質問に立ち、①無電柱化対策について、②尾張北部の幹線道路整備について、③スタートアップ支援についての3項目を一般質問しました。

これら質問項目は、とりわけ一宮市に関連が深い施策であり、選挙公約実現に向け着実に取り組んでいます。(詳細は5ページに)

名岐道路の整備延伸へ!

名岐バイパスの上を通る「名岐道路」の未整備区間のうち、一宮市内の優先整備区間(6キロ)を高速道路化する計画が正式に決まりました。国道22号両郷町交差点付近へのインターチェンジ設置も内定。名古屋が更に近くなり、一宮JCT～一宮IC間の渋滞解消へ! 平松利英は国県市の強力タッグのもと推進します。

全国各地で甚大な自然災害が多発していることを憂慮し、平松利英は関係機関の協力を得て、一宮市内の河川氾濫状況を総点検!

●青木川第3調節池 運用開始!

2016年9月、台風16号の豪雨により一宮市千秋町地内付近において青木川が越水。床下浸水19戸、浸水深20cmを超える道路冠水等の浸水被害が生じました。待望の第3調節池が運用開始となり、同規模の降雨において、家屋浸水及び道路冠水を防ぐことができます。現在は第4調節池(江南市五明地内)の整備を進めており、更なる安心安全に向け対策を進めて参ります。



●待望の日光川2号放水路 いよいよ事業化へ!

日光川水系、特に奥町を中心に一宮市内の広いエリアで浸水被害が頻発する野府川流域氾濫の



原因を根本的に解決するため、地元選出江崎代議士はじめ国交省・財務省へ中野一宮市長ともども要望活動を行いました。地元の長年の熱意が届き、本年から測量及び用地買収に入ることが決定! 野府川より木曽川へ毎秒60トン排水する『日光川2号放水路』がいよいよ事業化されます!

一般質問 本県の観光振興について

平松 県内各地にその市町村ならではの観光地や特色ある地元名産品など、いわゆる地域ブランドがあるが、観光資源として成功していない事例が多くある。そのような中、愛知県は昨年13年ぶりにJRグループ6社と地元自治体、地元観光業者等が協同し観光客誘致を図るデスティネーションキャンペーンに参加した。どのような内容で、観光レクリエーション資源の利用者数、宿泊客数の増減は前年同期と比べてどうなっているか。

答弁 今回のデスティネーションキャンペーンでは、例えば、一宮市の観光資源であるモーニング文化を活用したモーニングトレイン一宮を運行するなど特別企画を実施し大変好評だった。昨年10月から12月の集中キャンペーン期間の県内34カ所の観光レクリエーション施設の利用者数は、3,527万7,000人、前年同期比117.8パーセントと大きな伸びを記録。一方、集中キャンペーン期間中の延べ日本人宿泊客数は361万3,000人、前年同期比99.4パーセントとほぼ前年並みであった。

平松 本年10月から実施されるアフターキャンペーンでは、これらの反省点を生かし、どのような取り組みを行うのか。

答弁 広域からの誘客のため、東海旅客鉄道株式会社（JR東海）と連携し、県内外の駅へポスター掲出、JR東海運営ウェブサイトにも本県の観光特集を行ってもらうとともに、旅行商品を造成し実旅行につなげる。県外の旅行会社に対し、既に東京都、大阪府、福岡県で本県向けの旅行商品造成のための説明会を実施し、新たに県外の中堅旅行社の個別セールスを観光協会などと連携して行っている。昨年度の結果を分析し、さらに観光資源をブラッシュアップしていく。

平松 本キャンペーンは、観光地にとって、観光客を招く工夫を具体的にめぐらせる機会となり、観光地と自治体はもとより、観光協会や旅行会社とともに、誘客に取り組む体制が強化されるなど、多くの成果を上げた。一過性の実験的イベントで終わらせることなく、今後も県が旗振り役として広域的な枠組みの中で観光キャンペーンを実施してほしいが、県はどのように取り組んでいくのか。

答弁 広域的な誘客の旗振り役であることを認識し、引き続き県観光協会、市町村、地域観光協会などとスクラムを組み、交通事業者や県外の旅行会社へのプロモーションを実施するとともに、各種メディアを活用したより効果的な情報発信にも取り組み、愛知県の観光資源の露出を高めていく。



観光振興を推進します

議案質疑 国家戦略特別区域の特例について

平松 西尾次世代産業地区に対する国家戦略特別区域の特例について、その詳細と手続期間の短縮の見込みを伺う。

答弁 国家戦略特別区域の特例の適用事業として、本年6月11日に西尾地区次世代産業用地造成事業が認定された。この特例は、事業の実施に伴い必要となる保安林の指定の解除の手続に関するものである。特例の適用により、主要な代替施設の工事が完了した時点で、代替施設の設置の確認と確定告示が前倒しで行われる。森林法に基づく保安林の指定の解除に関する申請及び林野庁の適否審査は終了し、解除予定告示も既に行われている。手続期間の短縮は数箇月と見込んでいる。

平松 本事業は本県のみならず、日本の産業集積及び国際競争力の強化のためにも重要な事業である。引き続き、早期の事業用地の引渡しに向け、安全かつ円滑に工事を実施してほしい。



観光振興施策に重点を!

日本への外国人旅行者数は15年前500万人前後でしたが、2018年には3,000万人を超えました。少子高齢化により日本国民の消費量は低下していきなかつた、訪日外国人客のインバウンド消費を愛知に取り込むことが重要です。経済効果のみならず地方創世のための切り札としても期待されます。

観光消費額を比較すると、ビジネス兼観光で愛知県を訪れる県外からの宿泊客22,864円に対し、訪日外国人客は104,060円と5倍近く、約1,670億円を愛知で消費しています。(2018年)

議案質疑 ステーションAiについて

平松 愛知県は周知の通り製造品出荷額41年連続で全国1位を誇るものづくり大国です。世界に通用する自動車や工作機械、航空宇宙産業などが列挙し、私の地元一宮市で特に盛んな繊維産業も全国1位の出荷額を誇るなど、本県は物づくり分野に於ける世界有数の一大拠点を形成しており、優秀な企業や人材に恵まれている地域であり、スタートアップ・エコシステムの形成に向けアドバンテージを有した非常に高いポテンシャルを持つ地域です。

そのような状況の中、本県ではスタートアップ・エコシステムの形成に向け、昨年10月に「Aichi-Startup戦略」を策定するとともに、スタートアップの各展開段階に応じた各種ソフト事業に取り組んできた。また、ハード事業として、ステーションAiを整備する。

ステーションAiはどういった施設であるのか、また、県内全域にどういった成果をもたらすのか。

答弁 ステーションAiでは、この地域で優秀なスタートアップの創出・育成を図るとともに、世界から有力なスタートアップ、優秀な人材を呼び込み、スタートアップとスタートアップ、またはスタートアップと県内のものづくり企業、大学、研究機関等との交流・連携により、新たな付加価値の創出を図っていく。具体的には、ハード面として、シェアリングオフィスやコワーキングスペースを初めとしたオフィス機能、試作品作製が行えるラボ機能、研究開発機能、行政支援窓口、カフェ・レストラン、宿泊機能等を設置するとともに、ソフト面として、愛知県、パートナー企業、大学・研究機関による支援プログラムを実施していく。

ステーションAiがもたらす成果は、県内全域の企業、大学、研究機関に参画してもらうことにより、県内全域に広く普及させていきたい。また、ステーションAiとともに、各種参画機関が持つ技術・研究成果に係るテーマ・分野に特化したサテライト支援拠点を整備し、ステーションAiを中核とした全拠点のネットワーク化を図ることで、県内全体でスタートアップコミュニティを醸成する構想も持っている。

平松 先月、日本最大級オープンイノベーションのプラットフォームと言われるCREWW社や、ハードウェア開発をトータルサポートする総合型モノづくり施設であるDMM.make AKIBA社他を視察するため東京へ出向いた。スタートアップを支援する各社の大変活気あふれる状況を目の当たりにし、東京一極集中の危機感を改めて強くした。

これらコワーキングスペースやインキュベート施設等、スタートアップを支援するための施設は、民間事業者においても取り組んでいるが、行政として取り組むのはなぜか。

答弁 スタートアップ・エコシステムの形成における世界の先行事例を見ると、シリコンバレー、オースティン等を代表とする大学・研究機関を起点にスタートアップ・エコシステムの形成が図られる大学・研究機関先導型、ベルリンを代表とする都市の魅力によりクリエイティブな人材が集積し、その多様な人材の交流・連携により形成される都市魅力先導型、シンガポール、中国を代表とする行政が主導して形成を図る国家・行政先導型の三つの類型があることが明らかになった。

東京のように民間が主体となってスタートアップに対する支援の取組を始めているのに対し、自動車産業において100年に一度の大変革期を迎えている中、施策として新しい産業を起こしたいと考えている愛知県にとっては、県の積極的な関与により誘導していく「行政主導型」が有効であると判断した。



スタートアップ支援拠点及びサテライト拠点整備を急げ!

愛知県の主力産業である自動車産業は、電動化・自動運転等の実用化が進むなど100年に一度の大変革期を迎え、この地域の産業構造に大きな変革をもたらしていきます。

こうした歴史的転換期にあっても愛知県の産業が引き続き競争力を維持し、日本及び世界をリードしていくためには、革新的な技術やビジネスモデルを用いて、急速かつ大きな成長を目指すスタートアップを次々と生み出していく必要があります。一宮の地場産業にも光を当てます!

一般質問① ビッグデータを利用した観光振興について

平松 11月7・8日と経済労働委員会自民党議員団で県外調査を行い、「ダイレクトマーケティング」分野の日本における老舗・草分け的な存在である札幌市のフュージョン株式会社を訪ねた。フュージョン社は「一般社団法人札幌圏地域データ活用推進機構」の中核を担っている。本機構では、札幌市民生活の向上や経済活動の活性化等に資するため、会員企業はじめ官民が保有する様々なデータを集め、利活用を促進し、札幌圏における「データの地産地消」を実現しており、携帯電話位置情報などビッグデータを活用した「外国人観光客」取込みに成功している。

本県におけるビッグデータの外国人旅行者の誘客に向けた観光施策への活用について伺う。

答弁 中央日本総合観光機構によるビッグデータを分析し、事業内容の検討・実施に活用している。例えば、タイは、中部地域全体では春の訪問者の数が圧倒的に多い一方、県内では春と秋の2つのシーズンにピークがあり、紅葉がキラーコンテンツであることが明らかになっている。これを踏まえ、本年度のタイの旅行博では、秋の自然を中心に観光プロモーションを実施した。引き続きビッグデータを活用し、効果的なプロモーションを行う。

一般質問② オリ・パラ開催年におけるインバウンド旅行者の減少対策

平松 オリ・パラ開催年には外国人旅行者数が鈍化・減少する傾向にある。国内外の多くのオリンピック観戦客が一時期に首都圏に集中することで、オリンピックを目的としないインバウンド旅行者にとっては、混雑や費用の高騰などを避けたいとの思いから、訪日を避けることが懸念される。ロンドンオリンピックにおいても、インバウンド旅行者は年間を通じて微増、オリンピック期間中はマイナスであった。この現象を「クラウドイングアウト」と呼び、日本全体で2020年に地域分散や時期分散を積極的に図ることが重要であるが、本県としてどのように捉え、取り組んでいるのか伺う。

答弁 「訪日観戦を望む回答者の9割以上が開催地以外の地方への小旅行も望んでいる」という民間事業者の調査結果もあり、誘客のチャンスと捉えていくことが必要と考えている。本県としても、観戦客の誘客、あるいは大会前後の時期での誘客につなげるため、現在、海外での旅行博への出展や、旅行会社・メディアへの個別セールスなどの中で、本県の地理特性や、航空路線、交通機関などの旅行環境、さらには観光資源、イベントなどを積極的にPRしている。政府からの情報収集や旅行会社などとの情報交換を行いながら、今後も本県の観光の魅力について、観光プロモーションなどの機会やWebサイト・SNSなどの媒体を効果的に活用して情報発信を行っていく。



尾張西北部を安心・安全、便利で快適な地域へ!

少子化が進み医療・福祉・介護の需要が膨らむなど財政が圧迫。歴史ある一宮市が『尾張の雄』として光り輝いていくためには、市内外と連携し好循環を生み出す広域的な活動が重要です。そのため隣接市とミッシングリンクを起こしている幹線道路整備を急ぎます。また災害時において電柱が転倒し道路を塞ぎ、緊急車両が通れなくなる事態が昨年多発。本来助けられる命を救えない事態を防ぎたい。先ず緊急輸送道路の無電柱化から推進するべきと考えます。

テーマ1 無電柱化対策について

平松 本年の台風15号や19号での電線類や電柱への甚大な被害が明らかになるにつれ、電線類を地下に埋設するなどの「無電柱化事業」に対する関心が非常に高まっている。災害時の電柱転倒による家屋の損壊、感電事故、転倒した電柱が妨げとなり緊急車両が通行出来なくなる事態を防ぐことができる。本県の防災を目的とした無電柱化対策の取組を伺う。



無電柱化対策により安全な地域に

建設局長答弁 これまで主に「景観形成」の観点から主要駅周辺などの整備を進めてきた。無電柱化対策が進まなかった最大の原因は1kmあたり約3.5億円の経費を要することにある。しかし「防災」目的として緊急輸送道路の無電柱化対策は重要である。低コスト手法を検討し、「防災機能の向上」に重点をおいた無電柱化を推進する。

テーマ2 尾張北部の幹線道路整備について

平松 地域の中核都市であり、伝統ある一宮市と小牧市など市境を越え強く周辺地域を結びつける、国道22号と国道41号を連絡する4車線化道路整備が急務である。尾張西北部で計画されている主な路線は「萩原多気線」「一宮春日井線」「北尾張中央道と言われる国道155号」の3路線。中でも国道155号は国道22号との交差点周辺に名岐道路の中間インターが予定され、この中間インターと小牧インターを結び155号を利用する車両が拍車を掛けて増大する。名鉄犬山線の布袋駅付近鉄道高架事業もいよいよ高架化完了が見込まれ、ボトルネックが解消する今こそ整備促進が求められる。国道155号4車線化事業の進捗状況ならびに今後の取組について伺う。

建設局長答弁 国道22号から41号間は暫定2車線であるが、江南市、大口町、小牧市において4車化に取り組んでいる。引き続き一宮市を始めとする尾張北部の交通円滑化に資する国道155号整備を着実に進め、小牧インターへのアクセス強化に向け取り組む。

平松 「萩原多気線」「一宮春日井線」「北尾張中央道と言われる国道155号」の都市計画道路3路線の整備は、尾張北部地域のモノづくり拠点や航空宇宙産業が連携を図り、地域のポテンシャルを高めるために大変重要な路線であるので、早期整備を重ねて要望する。

テーマ3 スタートアップ支援について

平松 スタートアップ支援には「単なる場の提供」だけではなく「支援するノウハウ」がとても重要である。本県は海外連携事業において、先進地の「支援ノウハウ」を吸収していると聞いているが、その成果と今後の展開について伺う。

経済産業局長答弁 アメリカのテキサス大学と連携し、海外スタートアップ支援機関連携事業を実施している。愛知で4回のワークショップを開催し、テキサス大学による事業化加速の支援プログラムも実施、現地ビジネスパートナーとの商談を行い、海外市場展開を促した。同校からの提言が「ステーションAi」やサテライト支援拠点の基本コンセプトに活かされている。

大村知事答弁 テキサス大学との連携に加え、中国清華大学やシンガポール国立大学、フランスIMTatlantique、Paris&Coなどと具体的な連携事業の構築を図っている。県が進めるスタートアップ中核支援拠点「ステーションAi」やサテライト支援拠点のネットワーク形成事業の着実な進捗を図り、新たな海外機関との連携も更に強化拡充し、本県の産業競争力を引き続き強化する。

平松 本県はスタートアップ・エコシステムの形成に向けアドバンテージを有した地域であるが、昨今の第4次産業革命の中で県内各地域の産業が着実に成長していくためには、斬新なビジネスアイデアや革新的な技術を持つスタートアップとの「協業」こそ大きな鍵になる。県内の既存産業とスタートアップとの協業に向けての取組、今後の展開について伺う。

経済産業局長答弁 本年度より県内モノづくり企業と全国のスタートアップとのマッチングを図るスタートアップ連携促進事業を始め、10月末までに14件のマッチングが成功している。今後もこの取組を着実に進め、既存企業とスタートアップとの協業を促進する施策充実を図る。

平松 政府は『スタートアップ・エコシステム拠点都市』の選定を行うため、年明けに公募要領を公表し、3月までに拠点都市の選定を行う。本県が日本の先陣を切る『スタートアップ・エコシステム拠点都市』と選定されるよう、積極的な取組を要望する。

ご相談・お困りごとと対応状況(一部抜粋)

①	名草線4車線化	千秋町	全線4車線化へ向け測量及び設計費予算を確保
②	郵便ポスト新設	天摩団地町内会	町内にポストが無い → 千秋子育て支援センターに設置決定
③	一宮小折線舗装修繕	定水寺地域	路面に凹凸やひび割れ酷い → 本年度内に修復
④	浅井清州線交通安全対策	時之島地内	通学路の安全対策 → 車道の幅員変更等交通安全対策を指示
⑤	光明寺山郷舗装修繕	光明寺山郷地内	路面に凹凸やひび割れ酷い → 本年度内に修復
⑥	河野地区側溝改修	浅井町河野	側溝が古く通過車両の音がうるさい → 対応中
⑦	交通規制要望	伝法寺	一時停止箇所の見直しや新設を要望 → 県警と協議中
⑧	交通規制要望	張淵町内会	生活道路が抜け道に → 速度規制含め安全対策を協議中
⑨	歩行者信号新設	牛野信号交差点	平和堂前の信号に歩行者信号を併設 → 県警と協議中
⑩	青木川雑木除去	浅野羽根〜重吉	青木川の除草と雑木の除去対応
⑪	22号バイパス舗装修繕	浅野地域	江崎代議士事務所と協議、国交省より年度内の対応確約
⑫	外国人技能実習生受入	市内医療施設	認定申請したが未だ連絡ない → 厚労省と協議し解決
⑬	事業承継支援制度	市内事業所	支援制度の詳細を知りたい → 詳細資料と県の窓口を紹介
⑭	休眠地・休遊地の活用	市内各地	企業誘致など土地の利活用について専門家を交え協議



③路面に凹凸やひび割れ酷い



⑨ここに歩行者信号を



⑩雑木茂り増水時の排水に難あり

皆様のご相談・お困りごとをお聞かせ下さい

危険な場所、不便な個所、災害対策、子育ての課題、高齢者のサポートなど、何でもご相談ください。皆様の声をカタチにするため、**平松としひで**が迅速に対応いたします。お気軽にご連絡ください!



愛知県議会議員

平松利英

【県政事務所】

TEL:0586-52-5551

FAX:0586-52-5651

Mail: info@hiramatsu-net.com

日々の活動報告はFacebookにて発信中!



Facebook

8月開所予定

平松利英後援会事務所
〒491-0811 一宮市千秋町加納馬場字松下66付近

2月開所予定

平松利英県政事務所
〒491-0911 一宮市野口2丁目12-1 日拓ビル3F